

仙台市北山・八幡地区散策道路の設定と検討

東北大学 正員 小 林 眞 勝
東北大学 正員 須 田 潔

1. はじめに

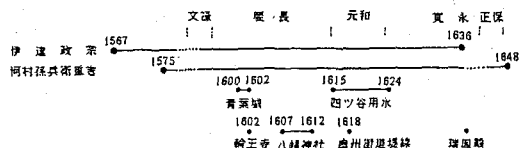
仙台市では景観整備の一環として「歴史と文化の散策道」の整備を進めている。これは仙台を代表する歴史的遺構、景観の眺望地点や文化施設等を安全で快適な歩道で結び、市民や旅行者のオアシスにしようとする構想である。本研究は、地方都市にある歴史的な文化施設を散策道で結び、憩いのある歩行者空間を造り出そうと試みるものであり、併せて生活環境の向上を計り、地域の活性化を目的とするものである。調査対象地区としては、仙台市北山・八幡地区をとりあげる。

2. 北山・八幡地区の形成と問題点

北山・八幡地区は仙台駅から約4kmの北西部に位置して青葉山連山の東にあたり、丘陵地帯である。歴史的には伊達政宗が1600年に仙台開府と同時に伊達家の菩提所として北山五寺が縁高を受け、各寺々の門前町として賑わった(図-1)。

現在この地区は、仙台市の7%を占める風致地区、国庫に指定されている神社・仏閣を始め、仙台水道(四ツ谷堰用水)等の歴史的施設が多く、全体的には緑豊かな静かな住宅地を形成している。しかし近年仙台市北西部に大規模な住宅地が開発され、それに伴い朝夕の自動車交通量が増大し、道路整備の遅れも手伝って生活環境の悪化を招いている。

本研究は、北山・八幡地区に点在している歴史的施設を散策道で結ぶことにより、地域の環境保全とコミュニティ空間の創造を目的としたもので、大きく2つの調査研究からなっている。1つは、保全すべき施設の調査と散策道のコース設定であり、1つは、現在自動車が通過している道路を歩行者専用道路に変更する場合の交通学的調査である。特に後者に関しては別途報告するため、本報告ではコースの設定とその問題点についての検討を行う。また調査対象としたコースの全長が4kmに及ぶため、ここでは、趣きの異なる3つのコースに分割し、各々検討を行う(図-2参照)。



(図-1) 仙台北城下町の形成期

3. 散策道の設定

(1) 北山五山コース (Iコース) (1.5km)

図-2にみる様に○印の順序に従って散策道に入る。ここは、北山の東端になり、国鉄仙山線と地下鉄の北仙台駅①を基点としている(写真-1)。②の所は奥州街道の道筋であり藩制代の面影が残っている。③から北山に登る。ここから西に北山五山の寺々が続く。光明寺脇を通り、次の東昌寺から青葉神社に入る所がなく大きく迂回しなければならないのでここは問題箇所である。しかし迂回コースの⑤は樹林の間道になっていて覚範寺へと出る。ここから資福寺を経て輪王寺へと至る。⑥から輪王寺参道(写真-2)を通り⑦に出る。

(2) 寺町コース (IIコース) (1.6km)

①の基点は藩制時代の城下町の出離れであった。ここから南へと進む道は新坂通りで、幅員が狭く朝夕の交通量も多いため、散策道の整備にあたっては交通学的に検討を必要とする。新坂通りは、北から永昌寺、充国寺、昌繁寺、荘厳寺(写真-3)と並んでいて名木・古木も手入れが行き届き、落ち着いた街並みを構成している。②から西に折れると大願寺通りである。この通りにも称念寺、大願寺と伊達家ゆかりの寺々である。③から南へ進み④を経由し⑤の龍雲寺へと続く。ここから⑥の交差点に入るが



(図-2) 設定コース図

この道は土橋通りで南から入る交通の幹線であり、交通量が多く、歩道も整備されていないため、歩行者が通れる空間を設置する必要がある。

(3) 八幡・四ツ谷堰コース（Ⅲコース）(0.9km)

①から西に進む。この基点から②までは既に歩行者空間として歩行者専用道路が整備されている。この辺から四ツ谷堰の偉容が露見してくるが、残念ながら蓋をしている為に水に触れることは出来ない。③の辺りは展望が開け青葉山のスカイラインが美しい。ここから四ツ谷堰に沿っての道路は、歩行者優先のため、指定車以外乗り入れが出来ない。③から④までの間は既に生活の一部として活用している箇所があり(写真-4)又、④の所は高さ2mの壁が出来ており直進出来ず問題の箇所である。その迂回路として④から⑤に続く道があり設定できた、ここは国宝指定の大崎八幡神社(写真-5)並びに龍宝寺で、⑤で国道48号線に結ばれる。

4. まとめ

コース設定の過程で問題箇所を指摘してきたが、これらの問題解決には私有財産の問題もあり時間と費用が伴う。しかし、環境は簡単に破壊され、また、もとの姿に戻すには大変な費用も掛かることも忘れてはいけない。この散策道ルートに隣接する3万人の人達が身近かなものとして利用出来れば幸いであり、また、仙台市民も北山には年間20万人の人達がなんらかの形で接している。仙台も人口密度が2700人/km²となり都市公園も5.4m²/人と高いが、自然が失われつつあることは疑わない。都市景観整備の一環として土木施設の遺構を発掘し主要な所を結び魅力ある散策道を設置することは、地域の生活環境の向上のみならず、地域の活性化の観点からも重要な対策であると思われる。

<参考文献>

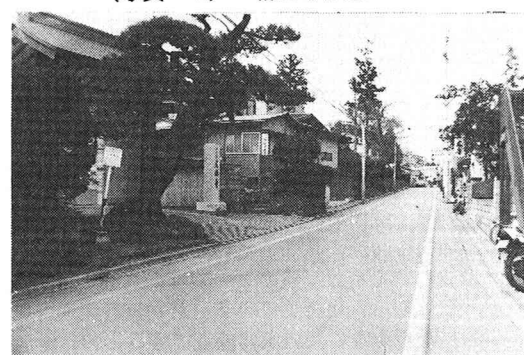
1. 仙台：昭和6年版 小倉博著 仙台市教育会発行
2. 仙台市史：第7巻別篇 5 仙台市史編委員会編
3. " 第8巻資料篇 1 "
4. 北山の歴史：小林清治著 北山町内会記念事業
5. 明治以前日本土木史：土木学会編
6. 街路の景観設計：土木学会編 技報堂出版刊
7. 続街並の美学：声原義信 岩波書店



(写真-1) 北仙台駅



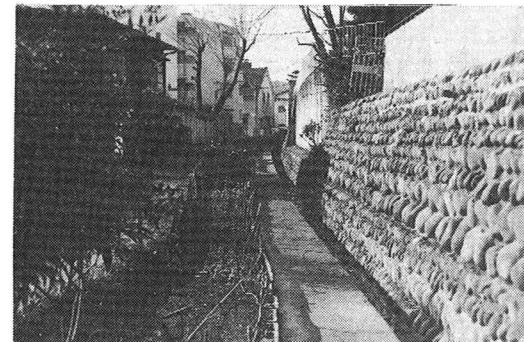
(写真-2) 輪王寺参道



(写真-3) 新坂通り



(写真-5) 大崎八幡神社



(写真-4) 四ツ谷堰用水